

事業報告書

2019 年度
(令和元年度)

公益財団法人JAL財団

目 次

● 事業の概要

I. 地球人の育成と国際交流を推進する事業

1. JAL スカラシッププログラム	3
2. 「空の日」中学生主要空港派遣事業	6
3. 地球人講座	7
4. 外国人学生に対する研修プログラム（インターンシップ事業）	8
5. 東日本鉄道文化財団研修生に対する研修プログラム	8

II. 日本文化の紹介等国際理解を推進する事業

1. 世界こどもハイクコンテスト	9
2. ハイク普及活動等への協賛	10

III. 航空文明社会の発展に関する事業

1. 新大気観測	10
----------------	----

● 庶務事項

1. 評議員会・理事会	11
2. 賛助会員	11

● 事業報告の附属明細書

13

別添：評議員・理事・監事（2020年3月31日現在）

賛助会員（2020年3月31日現在）

●事業の概要

I. 地球人の育成と国際交流を推進する事業

1. JAL スカラシッププログラム

(1) アジア・オセアニア地区大学生対象プログラム

アジア・オセアニアの大学生・大学院生を日本へ招待し、様々な研修や文化交流を通じて日本への理解や国境を越えた相互理解を促進し、将来のアジア・オセアニア地域を担う若者を育成することを目的としたこのプログラムは、昭和 50 年（1975 年）に日本航空によって開始された。平成 2 年（1990 年）に発足した日航財団（現 JAL 財団）が、その運営を引き継ぎ、充実を図りつつこれまでに 1,641 名の海外学生の参加を得るにいたっている。第 50 回となる今年度のプログラムは、14 か国・地域より計 26 名の海外学生を招き、「①防災・減災 ②SDGs-持続可能な社会へー 防災・減災と SDGs について考えよう。将来世代のために今私達ができること。」をテーマとして、日本語を使用して開催した。日本人の学生 26 名（石川地区含む）も、海外学生とともに研修やグループワークに臨み、交流を深めた。

・開催期間：2019 年 6 月 24 日～7 月 16 日（23 日間）

・テーマ：「①防災・減災 ②SDGs-持続可能な社会へー 防災・減災と SDGs について考えよう。将来世代のために今私達ができること。」

・開催地：宮城県仙台市・石巻市・気仙沼市・岩手県陸前高田市・釜石市・遠野市、石川県金沢市、白山市、東京都渋谷区、東京都品川区

・参加者：韓国（ソウル・プサン）／中国（北京・上海・大連・天津・広州・香港）／台湾（台北・高雄）／ベトナム（ハノイ・ホーチミン）／ミャンマー／ラオス／カンボジア／タイ／シンガポール／インドネシア／インド／グアム・ハワイ（アメリカ）オーストラリアの各地にて公募・選抜された大学生 26 名
東京・石川・福岡地区で公募・選抜された日本人大学生 26 名（東京 12 名、石川 14 名）

・協力：アジアフォーラム in 石川実行委員会、（公財）東日本鉄道文化財団、（独法）国際協力機構、白山市国際交流協会、白山市俳句協会

・後援：国土交通省、外務省、文部科学省、石川県、金沢市、白山市
北國新聞社、（公財）金沢コンベンションビューロー、石川県内 7 大学
（公財）石川県国際交流協会、石川県青年団協議会

・協賛：日本航空（株）

・開催概要：セミナー・グループワーク・公开发表会

今回初めて訪問した宮城県仙台市では、東北大学震災科学国際研究所（IRIDeS）所長 今村 文彦 氏より基調講演「東北大震災の実態と教訓」と

題し、複合災害の観点から東日本大震災を解析し、津波の外力とその誘因、もたらした被害について写真と共に解説いただき、津波について、より科学的に理解をすることができた。

引き続き訪問した石巻市立大川小学校跡地では、先の震災で亡くなられた74名の尊い命を悼み献花と黙とうを行った後、学校内とその周辺を視察した。南三陸ホテル観洋 伊藤 俊氏による語り部バスでは、南三陸防災庁舎や高野会館などの震災遺構を訪問し、当時の状況を伺った。釜石では、宝来館 女将の岩崎 昭子氏より津波災害発生時の状況を伺い、街の人々で助け合ったこと、物事を決めるは大変であったこと、若い世代のみんなが防災減災の意識を持ってほしい点を強調された。

石川県での「白山市プログラム」・「アジアフォーラム in 石川」を経た後、東京では、茨城大学大学院 政策・メディア研究科 野田 真里 氏に「『我がこと』としてのSDGsと災害・『より良い復興』」の演題で講演いただいた。Think Globally, Act Locallyの実践の必要性、日本のSDGsの3本の柱は①イノベーション②地方創生③人材育成であること、地域の活性化にSDGs 未来都市を選定して活用しており、昨年29都市、今年31都市が追加された点などを学んだ。続いて JICA 国際緊急援助隊事務局 湊 佑介氏による「国際緊急援助隊の活動について」と題した講演では、JICA による国際緊急援助隊の派遣について、実際の緊急援助決定までのプロセスや、これまでの災害派遣を紹介するビデオを拝見し、日本が誇れる任務を体感することができた。

学生たちは、その後グループに分かれてフィールドワークや討論を重ね、本年のテーマに沿って「SDGs」をレポートにまとめ、プログラム終盤の公開シンポジウムにおいて発表した。

なお、フィールドワークの一環として、東日本鉄道文化財団のご協力のもと、東京駅 TESSEI 社を訪問し、社員のマインドが「お客様からの笑顔・感謝」、「働く仲間からの承認」、「実践で手本示す先輩の存在」の3つに支えられていることなど、礼に始まって礼に終わる「TESSEI のおもてなし」について学んだ。

アジアフォーラム in 石川

プログラム中盤では石川県を訪ね、同県、金沢市、石川県内の大学・ボランティア団体等と財団で組織するアジアフォーラム in 石川実行委員会の主催する「アジアフォーラム in 石川」のプログラムに参加した。

金沢工業大学 SDGs 推進センター長 平本 督太郎 氏による講演「SDGs の精神と現時点での課題」では、SDGs の策定のルール作りの経緯、MDGs との相関関係の紹介があった。

金沢エコライフくらぶ代表 青海 万里子氏からは「くらしの課題解決を

SDGs で」と題し、フードバンクをはじめとする具体的な取り組みを紹介していただき、市民レベルで活動について学んだ。

国連大学サステナビリティ高等研究所 OUIK 事務局長の永井 三岐子氏による、SDGs カードゲーム体験では、自らの行動が、経済メーター、環境メーター、社会メーターの動きを通じて、周囲のグループと協力しない場合と、協力しあう場合で、どのように世界の活動に与える影響が異なるかを解説と共に学んだ。

地元の日本人学生とともに金沢市内でのフィールドワークや企業訪問を行い、ここから学んだ SDGs に対する取り組みについてグループ討議を重ね、最終日の公開シンポジウムにて 4 つのグループに分かれ、スカラーの視点からの発表を行った。

公開シンポジウム終了後に開催された「国際交流まつり」では、踊りと和太鼓の演奏に続き、民族衣装姿のスカラーたちによる民俗芸能などの出し物、地元学生による出し物が披露され、地元の方々との親睦を深めた。

日本の古き良き伝統文化に溢れる石川県ならではの体験型学習として、石川国際交流ラウンジにおいて、浴衣の着付け、茶室での裏千家の茶道、お琴の手ほどきを受け、日本の伝統文化に直に触れることができ、貴重な体験をすることができた。

白山市プログラム

白山市のご後援のもと、実施する白山市プログラムでは、白山比咩神社にて参拝体験をした後、千代女の里俳句館を訪問し、白山市俳句協会会長の皆様より、俳句の創作をご指導いただき、スカラー達は思い思いの俳句創作に取り組み、様々な題材の感受性豊かな俳句の発表を行った。金沢工業大学のグローバルユースの皆様と一里野高原にてバーベキューによる交流会を実施した。その後 SDGs の勉強会や、金沢工業大学で開発された SDGs カードゲームクロス を体験した。更に、スカラー生出身国の特徴を書き出し、それらを基に、リソースカードを作成し、各自思い思いのカードを作り上げた。終日 SDGs をいうテーマに語り過ごし、最後に金沢工業大学様より SDGs リングの胸章が、スカラー全員に贈呈された。白山市プログラム最終日には、白山市市長 山田 憲昭 氏、白山市観光文化スポーツ部部長 山下 浩雅氏 を表敬訪問した。引き続き白峰へ移動し、白山しらみね自然学校理事の 山口隆氏のご案内で白山砂防科学館を見学し SDGs の観点から解説を頂いた。東二口の「尾口のでくまわし」体験では、人形浄瑠璃に身近に触れることができ、日本の伝統文化を感じることができた。白山麓からの帰路に金沢工業大学地域防災科学研究所を訪問し、鉄筋コンクリート劣化のメカニズムや、最先端の工業試験装置を通じて、金沢工業大学による SDGs に資する研究開発に触れた。

ホームステイ

家庭生活を体験してもらうことにより、日本人の生活習慣や行動様式に関する理解を促すことを目的として、東京地区、金沢地区で各々ホームステイを実施した。東京地区では日本航空グループ社員 OB/OG、石川地区では公募した地元の皆さまにホストファミリーをお引き受けいただいた。

(2) 中国地区中学生対象プログラム（日中交流事業）

2018 年度は新潟県五十嵐中学校の生徒 7 人が中国北京市の育才中学校を訪問したが、2019 年度は、育才中学の生徒 8 名が五十嵐中学校を訪問し、2 年生全員による歓迎会の後、英語、数学、美術の授業に参加し、放課後は剣道、茶道、箏曲の部活体験を通じて交流を行った。新潟五十嵐中学校の生徒の家庭を訪問するホームステイでは、日本の家族と深い交流を図ると共に、日本の人々の普段の生活を知ることができた。翌日は、育才中学校の生徒と五十嵐中学校の生徒で佐渡島を訪問し、朱鷺の学習、砂金取り、たらい舟、和太鼓等の体験をした。最終日には、新潟北方文化博物館にて浴衣着付け体験、茶道、餅つきを体験し、日本の文化や、日本の故郷に触れることができた。お別れの会では、新潟市荒井副市長、孫 中華人民共和国駐新潟総領事、新潟市前田教育長、ホストファミリーのご家族の皆様をはじめとする新潟の関係者にもご参加いただき、生徒たちがお互いに出し物を披露し、JAL 紙飛行機中日友好記念大会を行う傍ら、相互に将来再会することを約束した。

2. 「空の日」中学生主要空港派遣事業

JAL 財団は、「『空の日』・『空の旬間』実行委員会」(*)より委嘱を受け、「空の日」・空の旬間」事業の一つである「空の日」中学生主要空港派遣事業の企画・運営に当たっている。この事業は、次世代を担う中学生に航空や空港に対する理解と関心を深めてもらい、視野の広い若者へと育成することを目的としており、成田国際空港や海外の主要空港、航空機メーカー、運航乗務員養成施設、機内食工場の見学、また、現地学生との交流等を実施している。平成 6 年度(1994 年度)より実施されており、2019 年度までの参加中学生は累計 432 名に達している。

(*)「空の日」・「空の旬間」

我が国の航空は、民間航空が再開した昭和 27 年(1952 年)以来、目覚ましい発展を遂げ、今や国民生活にとって不可欠の交通機関となるとともに、空港は地域発展の核となっている。民間航空再開 40 周年にあたる平成 4 年(1992 年)、より多くの国民に航空に対する理解と関心を深めていただくとの趣旨により、9 月 20 日に「空の日」、9 月 20 日～30 日に「空の旬間」が設けられた。

(*)「空の日」・「空の旬間」実行委員会

国土交通省航空局、本邦航空会社、空港関連企業、航空・空港関連公益法人等で構成

され、広く国民一般の空への関心と理解を高め、航空の発展に寄与するために、「空の日」・「空の旬間」事業を実施することを目的としている。

2019 年度事業概要

- ・派遣先 : シアトル、フェニックス、ロサンゼルス
- ・日程 : 2019 年 7 月 22 日～7 月 27 日 (4 泊 6 日)
- ・参加者 : 成田空港周辺の中学校生徒 6 名 (募集・選考は「実行委員会」が実施)
- ・見学 : ①成田空港 : 管制塔、日本航空格納庫に駐機中の B787 機材等
②シアトル : ボーイング社エバレット工場、カミアックハイスクール
(現地生徒と交流実施)、航空博物館
③フェニックス : 日本航空フェニックス乗員訓練所
④ロサンゼルス : 機内食工場、空港見学
⑤訪米/帰国時機内 : 客室乗務員の業務

参加中学生たちは、この研修を通じて、航空産業や空港には様々な仕事があり、その運営が実に多くの人々の努力や連携によって成りたっていること、「空」の安全が機械やシステムだけでなく、そこで働く多くの人々によって支えられていることを学んだ。また、参加した中学生同士や現地学校の生徒との交流や、航空関連の仕事に携わっている人々との交流を通じ、より視野を広めることとなった。なお、研修終了後、参加者の報告や研修中の写真を収録した「研修レポート」を発行し、関係先に配布するとともに JAL 財団ホームページに掲載している。

3. 地球人講座

地球規模で考え行動できる青少年の育成を目的として、第一線で活躍する講師による小中高校生を対象とした「地球人講座」を平成 15 年度(2003 年度)より国内外の各地で開催している。2019 年度は第 26 回、第 27 回の 2 回を宇宙航空研究開発機構 (JAXA) 宇宙飛行士の大西卓哉さん、油井亀美也さんに、日本国内 (熊本県熊本市)、海外 (米国、ホノルル) にてそれぞれご講演いただいた。国内外の小中高生、海外在住の日本人の皆さまを対象に宇宙の魅力や宇宙における国際協力などについて語っていただき、また、また、幅広い質問に丁寧に答えていただいた。参加された皆さまに感動と大いなる学びを与える講座となった。

第 26 回

- ・開催日 : 2020 年 1 月 26 日
- ・講 師 : JAXA 宇宙飛行士 大西卓哉氏
- ・テーマ : 国際宇宙ステーションでの活動の様子と宇宙での経験
- ・開催 : 熊本県熊本市
- ・聴講者等 : 九州地区の小中高生・保護者 約 300 名
- ・共 催 : 日本航空株式会社

- ・ 協 力 : 国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構 (JAXA)
- ・ 後 援 : 熊本日日新聞社

第 27 回

- ・ 開催日 : 2020 年 1 月 21 日、22 日
- ・ 講 師 : JAXA 宇宙飛行士 油井亀美也氏
- ・ テーマ : ①「My Stay on the International Space Station」 (英語講演)
②「宇宙で気付いた大切なこと」 (日本語講演)
- ・ 開催地 : 米国 ホノルル
- ・ 聴講者等 : ①現地校 Ioani School 生徒、教師 約 440 名
②Ala Moana Hotel/Garden Lanai 在住日本人 約 160 名
- ・ 共 催 : 日本航空株式会社
- ・ 協 力 : 国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構 (JAXA)

4. 外国人学生に対する研修プログラム (インターンシップ事業)

JAL 財団では、国際交流事業の一環として、海外の大学で日本語や日本文化を学んでいる大学生を研修生として受け入れて、日本での就業機会を提供するインターンシップ事業を実施している。平成 2 年度(1990 年度)に開始し、これまでに累計 38 名の海外学生を受け入れている。

研修生は、JAL 財団スタッフとして日本での仕事を体験し、さらに JAL グループのボランティア活動へ参加する等により、日本語能力の向上を図りつつ日本文化・社会への理解を深めている。また、JAL スカラシップ大学生交流プログラムの運営に携わることで、海外学生とも積極的に交流を行い、相互理解に努めている。なお、研修中に日本に関するレポートを作成し、終了時に財団内で発表することを課しており、発表終了後、そのレポート (日本語) を財団ホームページに掲載し公開している。

2019 年 受け入れ実績

北京外国語大学 大学生 1 名 (2019 年 3 月初～2019 年 8 月末)

なお、2020 年についても、2 月末から北京外国語大学の大学生の受け入れを予定していたが、新型コロナウイルス感染症の影響で、中止となった。

5. 東日本鉄道文化財団研修生に対する研修プログラム

JAL 財団は、東日本鉄道文化財団と各々の事業運営に相互に協力することとしており、その一環として、毎年、東日本鉄道文化財団がアジア諸国の鉄道会社若手社員を日本へ招いて実施している研修の一部として、主に安全をテーマとした研修内容を提供している。インドネシア・マレーシア・タイ・ベトナム・モンゴル・ミャンマーから 10 名の研修生を受け入れ、日本航空(株)の主催する航空教室への参加や、同社の安全

啓発センターの見学などを斡旋した。なお、この研修内容の提供は、平成 19 年度(2007 年度)に開始し、2019 年度までの海外研修生受入人数は 109 名に達している。

Ⅱ. 日本文化の紹介等国際理解を推進する事業

1. 世界こどもハイクコンテスト

昭和 39 年(1964 年)に日本航空がアメリカの音楽番組で呼びかけた「ハイクコンテスト」に始まる海外での俳句普及の取り組みを、平成 2 年(1990 年)の日航財団(現 JAL 財団)設立時より財団が引き継ぎ、日本と世界の 15 歳以下の子供たちを対象とした「世界こどもハイクコンテスト」を二年に一度開催している。このコンテストは、世界の子供たちにハイク創作の楽しさを広め、世界で最も短い「詩」であるハイクを生み出した日本文化や日本への理解と国際交流を促進することを目的として、各国の教育機関、日本航空海外支店などの協力を得て開催している。なお、その作品はハイクと絵で構成することとしており、ハイクを詠むとともにその目の光景や記憶にある情景を自らの手で絵に描きとめてもらうことにより、子供たちのより豊かな感性を引出し、養うこととしている。

2019 年度末までに作品の募集・選考・表彰等を終えた最新の第 16 回コンテストまでに、約 59 の国と地域から約 70 万作品が寄せられているが、毎回、大会を開催した国・地域ごとに大賞、優秀賞を選定し、大賞作品を集めて現地語に日本語・英語の訳を付して絵本「地球歳時記」に編集している。JAL 財団は、その一定部数を出版社より買い取り、国内の主な公立図書館や海外の関係機関に寄贈している。

※これまでの参加国・地域

アルメニア、アンゴラ、オーストラリア、オーストリア、バングラディシュ、ブータン、ブラジル、ブルガリア、カナダ、カンボジア、中国(含む香港)、クロアチア、デンマーク、エクアドル、エジプト、エストニア、フィンランド、フランス(含むフィジー)、ドイツ、ギリシア、インド、インドネシア、アイルランド、イタリア、ケニア、韓国、ラトビア、リトアニア、マレーシア、メキシコ、モンゴル、モロッコ、ネパール、オランダ、ニュージーランド、ノルウェー、パラオ、フィリピン、ポーランド、ポルトガル、ルーマニア、ロシア、セネガル、シンガポール、スロベニア、スペイン、スウェーデン、スイス、スリランカ、台湾、タイ、トルコ、ウクライナ、アラブ首長国連邦、イギリス、アメリカ(含むハワイ・グアム)、ベトナム、モルディブ、日本

「第 16 回世界こどもハイクコンテスト」の実施

開催期間：日本大会 2019 年夏から 2020 年冬

世界大会 2019 年冬から 2020 年春

テーマ：「スポーツ」

協力：国際俳句交流協会、(株)学研プラス

協賛：日本航空(株)

後援：外務省、文化庁、(独法)国際交流基金、(公財)日本ユニセフ協会

今大会は、40 の国・地域で開催しているが、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、開

催期間を延長した国や作品回収が遅れている国があり、作品数はまだ確認されていない。日本大会には、3,336 作品(前回は 6,153 作品)の応募があり、海外日本人学校・補習校から 2,862 作品(前回は 4,215 作品)の作品が寄せられた。なお、在日各国公館をはじめ海外の学校・団体等から参加問い合わせがあり、新たにアンゴラ、モルディブで大会を開催することが出来た。また、全受賞作品は J A L 財団の WEB に掲載し、さらに大賞作品を集めて 2021 年 2 月に「地球歳時記 第 16 巻『スポーツのうた』」として発行する予定である。

2. その他のハイク普及活動、ハイク関連事業への協賛

・第 22 回 松山 「俳句甲子園」への協賛

平成 9 年(1997 年)以来、毎年 8 月に愛媛県松山市で開催される「俳句甲子園」(全国高校俳句選手権)に協賛し、賞品を提供している。

・第 24 回 「草枕」 国際俳句大会(熊本)への協賛

平成 8 年(1996 年)に夏目漱石来熊 100 年記念事業として創設された「草枕」国際俳句大会に協賛し、ジュニア部門において「J A L 財団賞」を提供している。

・その他

松山市立子規記念博物館にて、7 月下旬から 8 月に世界こどもハイクコンテストのミニ展示会を開催、9 月から 10 月上旬に優秀作品のバナーや「地球歳時記」の展示を行った。

Ⅲ. 航空文明社会の発展に関する事業

1. 大気観測

民間航空機に上空の温室効果ガスを測定する装置を搭載して観測を行い、温室効果ガスの空間分布を明らかにし、研究成果の公表や観測データを国内外の研究者に提供することにより、地球温暖化メカニズムの解明に資することを目的とする事業である。また、研究成果や観測データの公開や取り組み内容の公表を通じて、地球環境に対する国民的関心の向上を図ることも目的としている。

この事業は、国立環境研究所、気象庁気象研究所、(株)ジャムコ、日本航空(株)と共同で実施している調査・研究事業であり、観測装置の開発、温室効果ガスの観測・研究成果の公表を国立環境研究所、観測データの品質評価を気象庁気象研究所、観測装置の搭載に係わる航空機改修とそれに関わる当局の承認取得を日本航空、観測装置の整備と運用性の確認をジャムコ、「航空機による地球環境観測推進委員会」の事務局業務とプロジェクト一般の広報活動を JAL 財団が主に担って推進している。

観測データは国内外に広く開示されており、それに基づく研究成果については、この事業に参加する研究者に留まらず国内外の多くの研究者により論文にまとめられ、また、学会等で発表されている。なお、この事業は、平成 5 年(1993 年)の開始からすでに 26 年を経ているが、このように長期にわたる継続的な航空機による大気観測の取り組みは世界に類がなく、その研究成果とともに国内外から高く評価されている。

・航空機による地球環境観測推進委員会

産官学の有識者から事業への助言を得るための会議体であり、事務局を JAL 財団が務めている。平成 28 年度（2016 年度）より第 3 期の 5 年にわたる取り組みが始まり、その第 4 回会議を 2020 年 3 月 13 日に開催する予定であったが、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う予防的措置から、開催を見送ることとした。

・観測実績

◎大気サンプリング装置

自動大気サンプリング装置（ASE）及び手動大気サンプリング装置（MSE）を使用した大気採取による CO₂、CO、CH₄、N₂O、H₂、SF₆、各同位体の濃度測定。

測定回数総計 391 回

CY05	1 回	CY06	20 回	CY07	18 回	CY08	23 回
CY09	25 回	CY10	20 回	CY11	21 回	CY12	31 回
CY13	35 回	CY14	30 回	CY15	34 回	CY16	24 回
CY17	23 回	CY18	43 回	CY19	46 回		

◎二酸化炭素自動連続測定装置

CO₂ 濃度連続測定装置（CME）を使用した CO₂ の濃度測定。

測定回数総計 22,944 回

CY05	59 回	CY06	707 回	CY07	1,547 回	CY08	1,069 回
CY09	1,260 回	CY10	1,145 回	CY11	1,275 回	CY12	1,372 回
CY13	1,744 回	CY14	1,885 回	CY15	2,464 回	CY16	2,327 回
CY17	1,915 回	CY18	2,017 回	CY19	2,158 回		

注. ASE=Automatic Air Sampling Equipment、MSE=Manual Air Sampling Equipment、CME=Continuous CO₂ Measuring Equipment

● 庶務事項

1. 評議員会・理事会

・第 71 回理事会（書面表決） 2019 年 5 月 10 日（金）

- ① 2018 年度事業報告及び附属明細書について審議承認された。
- ② 2018 年度計算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）、附属明細書及び財産目録について審議承認された。
- ③ 定時評議員会招集について審議承認された。

・第 55 回評議員会 2019 年 6 月 11 日（火）

- ① 2018 年度計算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）、附属明細書及び財産目録について審議承認された。
- ② 2018 年度事業報告が行われた。

・第 73 回理事会 2019 年 6 月 11 日（火）

- ① 業務執行報告が常務理事より行われた。

・第 74 回理事会（新型コロナウイルスの感染拡大防止のため書面表決）

2020 年 3 月 17 日（火）

- ① 平成 30 年度事業計画及び収支予算について審議承認された。

2. 賛助会員

47 社 [2019 年度末現在]

以 上

● 事業報告の附属明細書

2019 年度事業報告には、定款第 9 条及び「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

評議員・理事・監事

(2020年3月31日現在)

役職名	氏 名	所 属
評議員	青木 周司	東北大学大学院 理学研究科教授
評議員	稲川 廣幸	株式会社JALUX 特別顧問
評議員	清水 新一朗	日本航空株式会社 取締役専務執行役員
評議員	下村 満子	ジャーナリスト、一般財団法人東京顕微鏡院 特別顧問
評議員	原口 幸	株式会社ジェイアール東日本企画 代表取締役社長
評議員	松平 恒忠	一般社団法人日本英語交流連盟 名誉会長
理事長	植木 義晴	日本航空株式会社 取締役会長
理事	安岡 善文	東京大学名誉教授
理事	早水 研	公益財団法人日本ユニセフ協会 専務理事
理事	壬生 基博	森アーツセンター 副理事長
理事	宮下 恵美子	国際俳句交流協会 評議員
常務理事	池田 江津子	常勤
監事	鈴鹿 靖史	日本航空株式会社 常勤監査役
監事	徳永 信	宗和税理士法人 代表社員

賛 助 会 員 Members

(2019 年度末)

株式会社アクセス国際ネットワーク	株式会社JALスカイ金沢
株式会社梓設計	株式会社JALスカイ九州
株式会社エージェンシー	株式会社JALスカイ札幌
株式会社オーエフシー	株式会社 JALUX
岡三証券株式会社	株式会社JALナビア
大阪空港交通株式会社	株式会社JALファシリティーズ
JALスカイエアポート沖縄株式会社	株式会社JALブランドコミュニケーション
沖縄給油施設株式会社	株式会社JALマイレージバンク
空港施設株式会社	株式会社JALメンテナンスサービス
三愛石油株式会社	株式会社ジャルカード
株式会社ジャムコ	株式会社ジャルパック
株式会社JALインフォテック	株式会社ジャルセールス
株式会社JALエービーシー	ジャルロイヤルケータリング株式会社
株式会社JALエアテック	大和証券株式会社
株式会社JALエンジニアリング	日航関西エアカーゴ・システム株式会社
株式会社JALカーゴサービス	日本エアコミューター株式会社
株式会社JALカーゴサービス九州	日本空港ビルデング株式会社
株式会社JALグランドサービス	日本航空株式会社
株式会社JALグランドサービス大阪	日本トランスオーシャン航空株式会社
株式会社JALグランドサービス九州	野村証券株式会社
株式会社JALグランドサービス札幌	株式会社びゅうトラベルサービス
株式会社JALサンライト	みずほ証券株式会社
株式会社JALスカイ	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券株式会社
株式会社JALスカイ大阪	

合計 47 社